

コロナ禍の終わりが視野に入ってきた！

WHO

パンデミックとインフォデミック

加藤良一 令和4年9月16日

WHO(世界保健機関)のテドロス事務局長は、9月14日の記者会見で、新型コロナウイルス感染症の世界全体の死者数が、先週、2020年3月以来の低い水準になったとしたうえで、「世界的な感染拡大を終わらせるのにこれほど有利な状況になったことはない。まだ到達していないが、終わりが視野に入ってきた」と述べました。

しかし、事務局長は、まだ終息宣言できるような状況ではないので、感染拡大防止の取り組みの継続を訴えました。

WHOの集計では、9月5日から11日までの世界全体の死者数は前の週より22%減少して1万935人、新規感染者数は28%減少して313万人余りとなっています。テドロスさんは、「マラソン選手はゴールが見えてきたからといって立ち止まることはなく、残った力を使って、より速く走ろうとするものだ。この機会を逃してはならない」と述べました。なかなかうまいことをいうものです。

テドロスさんの発言は、過去に中国に^{ごますり}忖度して初動を狂わした経緯があり、あれ以降懐疑的にならざるをえず、安易に受け入れ難いものがあります。あの時は、武漢発祥の新型コロナウイルス感染症が中国でやや収まった頃合いを見計らって、WHOはようやくパンデミックと発表しました。

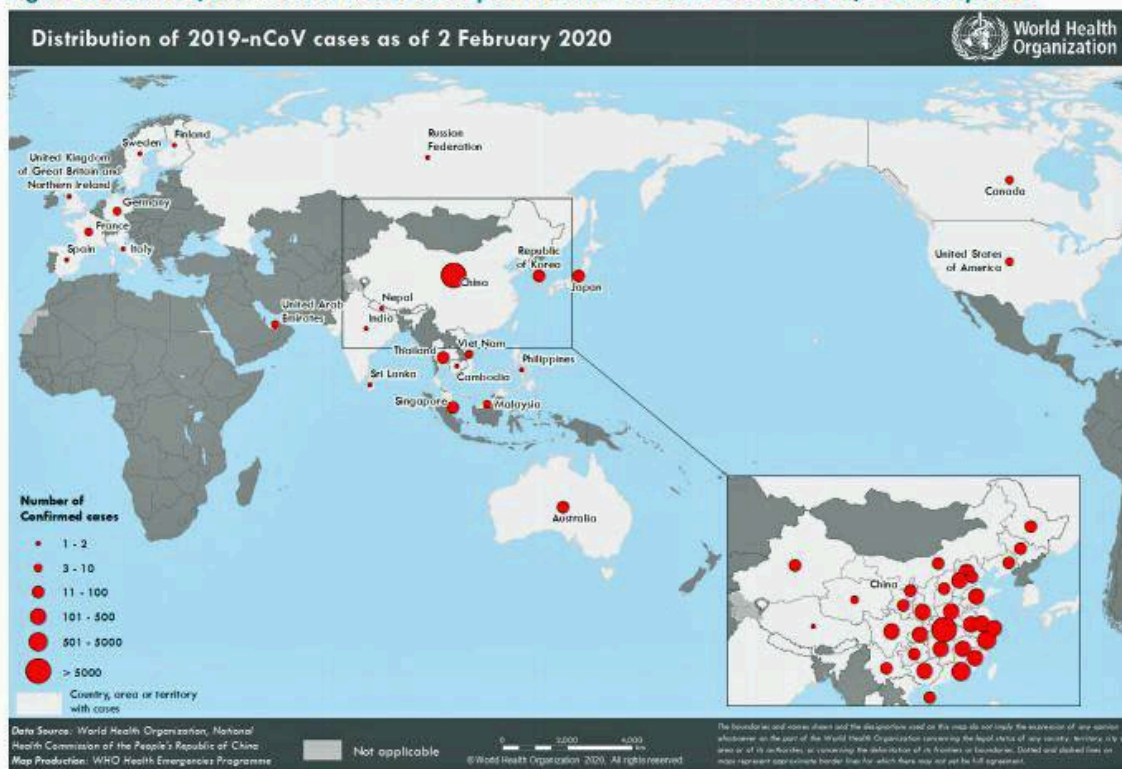
WHOは「人間の健康を基本的人権の一つと捉え、その達成を目的として設立された」そうですが、チャイナマネーに牛耳られて政治的に動いていることは火を見るより明らかでした。

まあ、それはそれとして、初期の感染状況を見てみると、2020年2月2日の時点では武漢を中心に中国に蔓延していました。(次頁図参照)

それが、3月31日の時点ではヨーロッパや米国が酷い状況になっていきました。科学を信じない理解できないといわれても仕方ないヤンキー・トランプさんも最初はテキトーにのんきなことを言っていました。いつの間にか米国が中国を抜いて一番になってしまいました。これで名実ともに**America first**になれましたね。

長崎大学熱帯医学研究所教授の山本太郎氏は、今回の感染拡大は「現代的パンデミック」だと表現していました。都市に人々が密集し、地球の隅々まで交通網が発達し、人びとが頻繁に移動・交流する。勢いウイルス拡散のスピードも速くなる。さらにツイッターやフェイスブックなどのSNSが盛んに使われるデジタル時代のパンデミックであることが特徴だと指摘しました。

Figure 1. Countries, territories or areas with reported confirmed cases of 2019-nCoV, 2 February 2020



情報が速やかに交換されることは好ましいのですが、中には不確かな情報、あるいは偽や悪意のある情報も少なからず含まれています。それに踊らされて右往左往し、挙句に警告を無視したり、マスクやトイレトペーパーの買い占めに走ったのも今回の特徴でしょうか。多くの人が、「念のため」とマスクを買い込むことで店頭からマスクが消えてしまいました。これに乗じて高値で販売する不届きな輩も現れるという始末でした。

こんな状況に対しては、Covid + Idiot = Covidiot^{コビディオット}、つまり「コロナバカ」という嬉しくない造語も生まれてしまいました。これはもちろんWHOでは使っていませんが...

このような感染に関するフェイクニュースがかなりの勢いで広がっていることをWHOでは、**インフォデミック**と呼びました。例えば、「ニンニクが新型コロナウイルス

ウイルスに効くという証拠はない」などとわざわざWHOが宣言しなければならない状況だったのです。

インフォデミックの広がり方はパンデミックと同じで、フェイクをシェアすることで対数増殖してしまいます。ウイルスとの闘いとともにフェイクニュースとも戦わなくてはなりません。これは今後も続いていく問題です。

WHOは、現在の新型コロナウイルスの感染状況が、2020年に宣言した「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」に当たるかどうか協議する定例の専門家会議を10月3日を開くとしています。どのような判断をするのか注視しましょう。

Back

虫めがね Top ^

Home

Home Page ^